

令和7年度 南部地区子ども支援net 議事録

日時：令和8年1月23日（金） 13：30 ～ 16：00

場所：瀬戸内町 きゅら島交流館

参加者： 52名（※詳細は別紙）



1. 開会あいさつ

瀬戸内町保健福祉課

課長補佐 仁科 誠 氏

2. 説明（事務局）

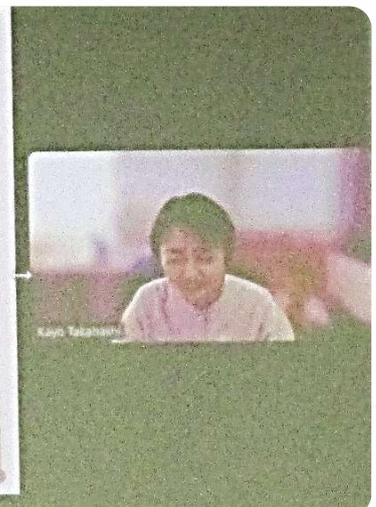
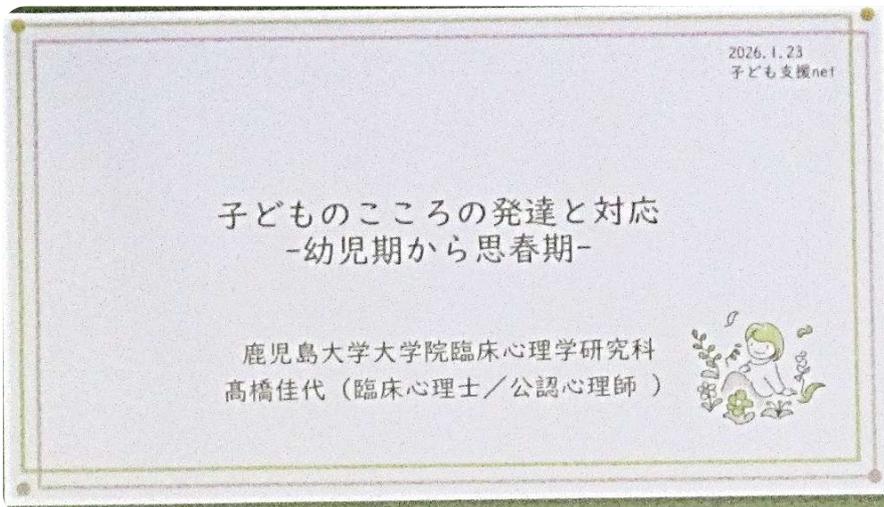
奄美地区地域自立支援協議会
について



3. ミニ研修

「子どものこころの発達と対応～幼児期から思春期～」

鹿児島大学大学院臨床心理研究科 准教授 高橋 佳代 氏



4. グループワーク

「奄美南部での困り感のある子どもや、その家族を支える人たちの連携について」

1グループ



◎それぞれが抱えるケースについて共有することができた。

◎保護者支援について

⇒保護者も精神疾患があるケースの場合、保護者への説明の仕方や支援方法について難しさを感じることもある。

2グループ



◎多職種連携について

⇒前半の研修内容からヒントを得ることができた。日頃から連携し情報共有しながら支援していきたい。

⇒子どもそれぞれに適切な支援がある。正解はなかなか見つからないが、様々な視点を持って支援していくことが大切。

3グループ



◎へき地の課題

⇒へき地だと療育に通いたくても船代が自費だったり得られる情報が少ないことなどがある。

島外への転居を選ばざるを得ない場合もある。

⇒瀬戸内町から大島特別支援学校までの通学バスの道中、利用可能なバリアフリー対応トイレが少ないため困っている。バリアフリー対応トイレはあるが、早朝だと開いていない場合も。

4グループ



◎思春期の子どもへの支援方法について

⇒ルール作りをしているが、それを守ることが難しい子どももいる。(お菓子を持ってこない など)

お菓子の持ち込みOKの日を設定するのはどうか、子どもの気持ちを聞き、支援者の気持ちもメッセージで伝える、などの助言が出た。

◎研修内の「遊びは総合的な経験」という言葉を聞き、改めて大切な考え方だと感じた。

今後も活動の意味づけをしながら支援していきたい。

5グループ



◎不登校の子どもへの支援

⇒それぞれ関わる職種における役割分担ができてきた。連携会議なども開催されている。

居場所づくりとして「ふれあい学級」や「さくらじゅく」などもあることを共有。

◎家族との関係

⇒祖父母の反対があり特別支援学校や療育利用へのハードルが上がることも。

6グループ



◎寮コーディネーターの業務内容や役割について共有することができた。

◎特性のある子どもへの支援について

⇒この場で解決策は出なかったが、横のつながりを作ることができた。

様々な意見を聞くこともできよい学びとなった。

7グループ



◎子どものことを理解したいが、どうすればよいかわからない。どこまで希望を聞くべきか。

⇒発語のない子どもの場合、写真や絵カードを使用し提示するのはどうか、

事業所や関わる機関で共通した対応をすれば、子どもも混乱しない、などの意見が出た。

◎医療的ケア児について

⇒保護者の抱える不安は計り知れない。関係機関で情報共有する場が大切。

◎瀬戸内町⇄大島特別支援学校間の送迎バス

⇒送迎バスの運行が始まり、南部在住の子どもに選択肢が広がった。

8グループ



◎参加メンバーの業務内容や役割について共有することができた。

◎子どものメンタルヘルス

⇒10代の患者（ODなど）が増えてきた。居場所づくりや認めてもらえる場所が必要。

親なき後のことも考えながら、医療・福祉・教育が協働しながら支援していくことが重要となるのでは。

9グループ



◎並行利用している子どものパニックについて

⇒本人が利用先を勘違いしており、夕方迎え時に発覚しパニックになることがあった。

⇒週ごとの予定表を作成し家庭・学校・療育で共有、携帯のアプリの活用、などの意見が出た。

◎不適切な行動をした子どもへの対応について

⇒子どもを混乱させないためにも関係機関で共通した対応を決めておく。

好事例の共有もしていきながらポジティブにチーム支援していけたら。